

し ょ さ ん べ つ
初山別川水系河川整備基本方針

平成 16 年 5 月

北 海 道

初山別川水系河川整備基本方針

目 次

1 . 河川の総合的な保全と利用に関する基本方針	1
(1)流域の概要	1
(2)治水の現況	1
(3)河川の利用の現況	2
(4)流域の自然環境	2
(5)河川の総合的な保全と利用に関する基本方針	3
2 . 河川の整備の基本となるべき事項	4
(1)基本高水並びにその河道及び洪水調節施設への配分に関する事項	4
(2)主要な地点における計画高水流量に関する事項	4
(3)主要な地点における計画高水位及び計画横断形に係る川幅に関する事項	5
(4)主要な地点における流水の正常な機能を維持するため必要な流量に関する事項	5
(参考図)	
初山別川水系流域概要図	6

1．河川の総合的な保全と利用に関する基本方針

(1)流域の概要

初山別川は、北海道北西部に位置する初山別村市街地より、南東約14kmに位置する標高 557.7mの山にその源を発し、冷水の沢川、九線沢川などの7支川を合流しながら北西へ流下し、初山別村市街地南側を通り日本海へ注いでいる。その流域面積は51.3 km²、幹川の流路延長は18.8kmの二級河川である。

河川名の由来は、一説によるとアイヌ語の「シュサンペツノ小さい沢のある川」から転化したものといわれている。

流域は全て初山別村に属し、このうち9割が森林となっており、下流部から中流部にかけて河川に沿って細長く平地が分布している。平地では基幹産業である農業が営まれており、稲作を中心に乳牛、肉牛、養豚などの酪農・畜産が行われている。河口付近には市街地が形成され、初山別村における社会、経済の基盤をなしている。また豊かな自然環境を有することから、本水系の治水・利水・環境についての意義は極めて大きい。

気候は日本海岸式の気候で、暖流である対馬海流の影響で緯度の割には比較的温暖である。年平均気温は7.5℃前後で、夏でも30℃を越えることは極めて少ない。年平均降水量は約1200mmと北海道ではほぼ平均的であり、夏季に入る7月頃から雨量が多くなる。冬季には海からの風が強くなり風雪となりやすいため、視界不良や吹き溜まりによる交通障害が発生しやすい。

流域の基盤地質は、白亜系・新第三系および第四系（段丘堆積層、沖積層）からなっている。新第三系は、この周辺域では下位から三毛別層、築別層、古丹別層、金駒内層、東野層、遠別層および茂築別層に分けられる。本流域では古丹別層が最も広く分布しており、築別層を不整合に覆い主として一周期が礫岩、砂岩、砂岩泥岩互層、泥岩に至る順序で繰り返しつつ累重する厚い地層である。

初山別川の上流域は、兩岸に急峻な山地がせまり、深い渓谷を縫うように流下している。山間部を抜け中流部にはいると、川沿いに細長く平地が分布しており、川は山裾に沿って大きく蛇行を繰り返し、片岸が山付きとなっている区間が多い。初山別村の市街地から農村地帯を貫流する下流域は、かつて河川改修工事が行われており河道は直線化され、流れは平瀬の部分が多い。

(2)治水の現況

初山別川の治水事業は、昭和39年8月の集中豪雨により初山別村市街地に大きな被害を受けたことを契機に、昭和41～43年に市街地付近約500mにわたり、河川改修が行われたのが始まりである。その後は部分的に護岸工が行われている程度であるが、昭和56年8月と昭和57年8月の豪雨によって立て続けに水害が発生しており、また平成4年7月の豪

雨では、十間橋付近において農耕地7ha、家屋12戸が浸水する被害を受けた。これを受けて平成6年に本格的な河川改修に着手しているが、平成6年、11年と近年においても度々災害が発生しており、農耕地への浸水、河岸の決壊、護岸工の破損等の被害を受けているため、早急な対策が望まれている。

(3)河川の利用の現況

河川空間の利用に関しては、市街地に近い下流域では散歩や魚釣りに訪れる人も多く、地域住民の憩いの場となっている。また中流域では、自然の恵みを享受できる場として、春秋の野草取りや魚釣りを楽しむ人々の姿が見られる。

河川水の利用については、農業用水として南千代田頭首工、新生第二頭首工、新生第一頭首工の3箇所で行われており、約78haの耕地のかんがいに利用されている。

(4)流域の自然環境

初山別川の上流域は、両岸に急峻な山地がせまり、深い渓谷を縫うように流下する清流で、サクラマスなどの魚類の良好な生息空間となっている。河岸にはエゾイタヤ、ミズナラを中心とした樹林帯が豊かに繁茂し、針広混交林の広がる山地には、北海道を代表する野生動物であるヒグマやエゾリスが生息するほか、山地の樹林帯をすみかとするカラ類などの鳥類も多い。

川沿いに農耕地の広がる中流域は、山裾に沿って大きく蛇行を繰り返しており、片岸が山付きとなっている区間が多い。河床は砂礫や玉石から構成されているが、水衝部には基盤岩が露出している場所が目立ち、流水作用により複雑な瀬・淵が形成されている。山地から連なる河畔林にはケヤマハンノキ、ハルニレも多く見られるが、河岸にはオノエヤナギなどが優占している。河岸樹木から張り出した枝は、水面を覆い緑の回廊を形成しており、水温上昇が抑制され、エゾウグイやサクラマスなどの魚類にとって良好な生息域となっている。またそれを採餌するカワセミやヤマセミなどの鳥類も見られるほか、エゾシカやタヌキなどのほ乳類も水や餌を求めて出没する。

初山別村の市街地から農村地帯を貫流する下流域は、かつて河川改修工事が行われており、河道は直線化され、流れは平瀬の部分が多い。この地域では、河岸にヤナギ類が点在しておりハシブトガラやアカゲラなどの野鳥が比較的頻繁に見られる。また水際に繁茂するヨシ等のかげにはイトヨが生息し、河口付近の流れの緩やかな場所ではウキゴリが優占している。

水質については、生活環境の保全に関する環境基準の類型指定を受けていないが、過去の調査によると、BOD値は夏季に比較的高めの値を示したが、平均値を見ると約1.6mg/lとA類型相当であり、良好である。

(5)河川の総合的な保全と利用に関する基本方針

河川の総合的な保全と利用に関する基本方針としては、水害の発生状況、治水事業の現状、河川の利用状況ならびに河川環境を考慮するとともに、既存の利水施設等の機能の維持に十分配慮し、流域内で一貫した計画のもとに、以下のとおりとする。

災害の発生の防止又は軽減に関しては、初山別川流域の社会・経済的な重要度と道内他河川とのバランスを図りつつ、初山別川の沿川地域を防御するため、河道の掘削や堤防の新設により河積を拡大させ、計画規模の降雨で発生する洪水の安全な流下を図るものとする。

整備途中段階における施設能力以上の洪水や、計画規模を上回るような洪水に対しては、水防管理者などの関係機関に対し河川情報などの伝達体制整備を行い、被害の軽減を図る。

河川の適正な利用及び流水の正常な機能の維持に関しては、河川利用の状況や水量・水質の把握を継続するとともに、利水者や関係機関と連携しながら、適正かつ合理的な水利用を目指すものとする。また魚類等の生息状況などに配慮し、現況の流況の維持に努めるものとする。

河川環境の整備と保全に関しては、初山別川は豊かな自然環境を有しており、瀬や淵にはエゾウグイ、サクラマスなどの魚類が生息し、豊かに残されている樹林帯にはアカゲラなどの樹林性の鳥類が営巣・生息している。このような川の流れに育まれてきた多様な動植物の生息・生育環境に配慮し、良好な河川環境の保全と整備に努める。また下流部の市街地に近い場所では、地域の子供たちが川に親しみ、楽しく遊び・学べる空間の確保を図るものとする。

河川の維持管理に関しては、災害発生の防止、河川の適正な利用、河川管理施設の維持、流水の正常な機能の維持及び河川環境の保全と整備など総合的な観点から、適切な実施に努めるものとする。また河畔林については、治水上及び環境上の機能や影響を考慮した上で、適切な管理を行うものとする。

以上の実施にあたっては、地域住民や各分野の専門家の意見を踏まえながら、河川の総合的な保全と利用に努めるものとする。

2. 河川の整備の基本となるべき事項

(1) 基本高水並びにその河道及び洪水調節施設への配分に関する事項

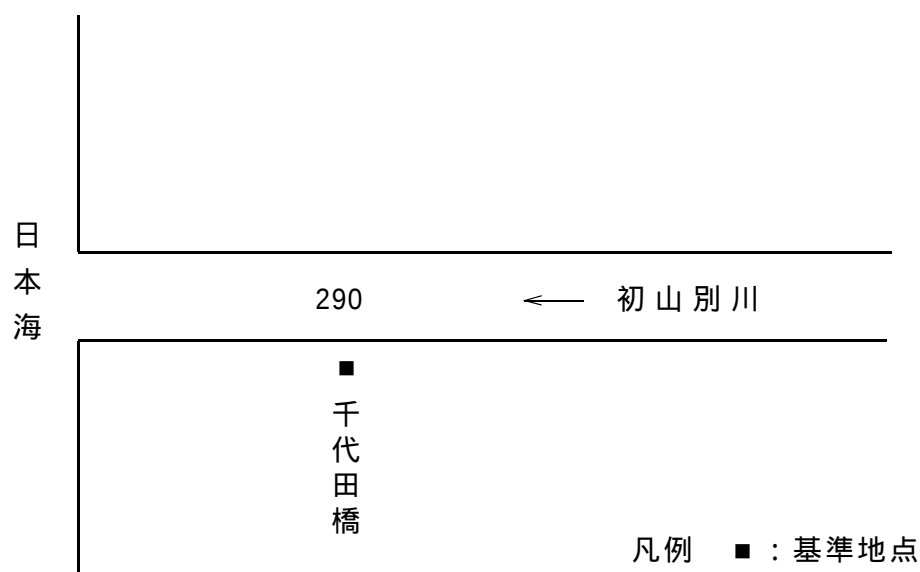
基本高水のピーク流量は、近年において浸水被害のあった平成4年7月、平成11年7月などの降雨で発生すると予想される洪水を考慮して、千代田橋^{ちよだばし}基準地点において $290\text{m}^3/\text{s}$ とする。

基本高水のピーク流量一覧表

河川名	基準地点	基本高水の ピーク流量 (m^3/s)	洪水調節施設 による調節流量	河道への配分流量 (m^3/s)
初山別川	千代田橋	290	-	290

(2) 主要な地点における計画高水流量に関する事項

初山別川における計画高水流量は千代田橋基準地点において $290\text{m}^3/\text{s}$ とする。



計画高水流量配分図 (単位: m^3/s)

(3) 主要な地点における計画高水位及び計画横断形に係る川幅に関する事項

本水系の主要な地点における、計画高水位及び概ねの川幅は次表の通りとする。

主要な地点における計画高水位及び川幅一覧表

河川名	地点名	河口からの距離 (km)	計画高水位 T.P. (m)	川 幅 (m)
初山別川	千代田橋	1.35	+ 9.60	48

(注) T.P. : 東京湾中等潮位

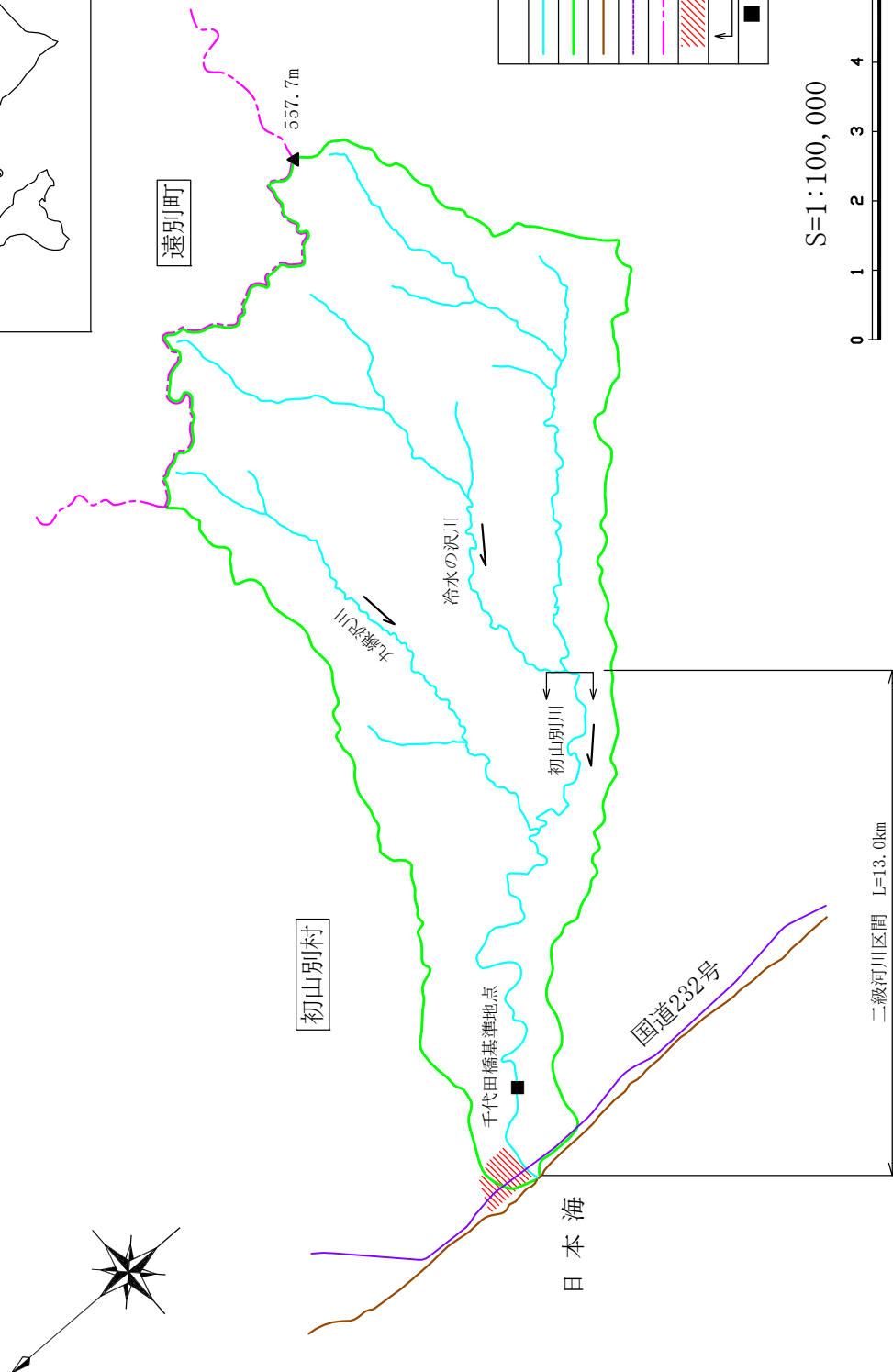
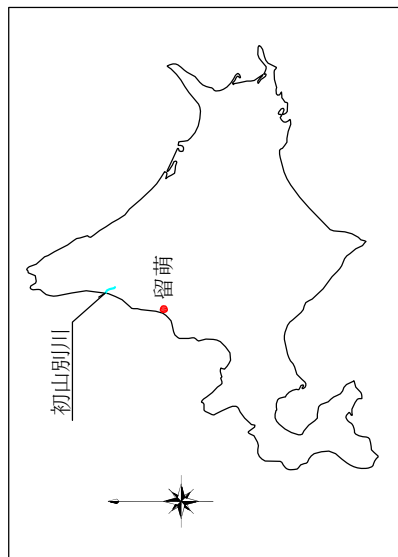
(4) 主要な地点における流水の正常な機能を維持するため必要な流量に関する事項

千代田橋上流における既得水利は、農業用水として、かんがい面積約78ha、許可水量約0.2m³/sがあるが、渇水による被害は発生していない。

流水の正常な機能を維持するため必要な流量については、今後、流況等の調査を引き続き行い、利水の現況、動植物の保護、流水の清潔の保持などを考慮して定めるものとする。

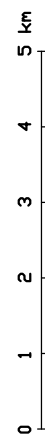
初山別川水系流域概要図

位置図



凡	例
河	川
流	域
海	岸
主	要
道	路
町	村
市	街
法	区
基	準
地	点

S=1:100,000



二級河川区間 L=13.0km